

第五次総合計画の策定に係る
各種団体との意見交換会

結果概要

大磯町

第五次総合計画の策定に係る各種団体との意見交換会 開催日程表

No.	団体名	年月日	時間	場所
1	大磯町体育協会	令和元年 11 月 27 日 (水)	19 : 00～19 : 35	保健センター 2 階研修室
2	大磯町商工会	令和元年 12 月 10 日 (火)	19 : 05～19 : 40	大磯町商工会
3	大磯小学校 PTA	令和元年 12 月 12 日 (木)	13 : 00～14 : 30	大磯小学校
4	大磯消費者の会	令和 2 年 1 月 14 日 (火)	13 : 00～14 : 15	西小磯東 老人憩いの家
5	大磯町観光協会	令和 2 年 2 月 19 日 (水)	20 : 00～21 : 00	ふれあい会館

第五次総合計画の策定に係る各種団体との意見交換会結果概要（大磯町体育協会）

1. 日 時 令和元年11月27日（水）19:00～19:35

2. 場 所 大磯町保健センター 2階研修室

3. 出席者 大磯町体育協会理事 11名
政策課 藤本課長、宮代

4. 概 要

（1）町からの趣旨説明

◇ 第四次総合計画概要版及び卓話集会で使用したパワーポイント資料を配布して説明。

（2）意見交換

- 体育協会主催の大会でも参加チーム数が減少しており、人口減少の影響を感じる。
- 税収が減少するので、プールや体育館などの整備は難しいことが分かった。
- 子どもたちが体を動かせる場所がない。町内の公園は利用の制限が多く、キャッチボールやサッカーなどができない。
- 運動公園が有効に利用されていない。小さい子どもの集まる施設にしていきたい。
- 町ができないことは、ボランティアを募ってはどうか。町は町民に協力を求めることが少ない。これから高齢化で時間に余裕がある方も増えるだろうし、そのような活動が健康にもつながる。
- 明治150年記念の明治記念大磯邸園の一部公開は非常に良かった。このような町外から観光客が来てもらえるイベントを行うことで、町内に活気が出てくる。
- 周遊の拠点となる施設へのアクセスが悪い。人を呼び込むための課題である。
- 空き家をリノベーションした飲食店が増えてきているが、周知されていない。
- 多くの観光客を受け入れることができる飲食店や休憩施設がなく、来町者に消費してもらえる機会を逃していてもったいない。
- お土産を購入できる場所も不足している。
- 見学するのに良い場所や良い施設は沢山あるが、それ以外に町内に楽しんでもらえるところが不足している。食事などの他に楽しめる場所がほしい。
- ツアーで来町する方の弁当すら食べる場所が限られているのが課題である。
- 町内の駐車場が不足している。
- 海岸が賑わい交流施設の整備とともに、海岸利用を活性化できるようになれば良い。
- 町内に昼食をとる場所がないが、大磯港賑わい交流施設ができることで、昼食等の問題は改善が期待できる。
- 海岸を様々な年代の方に利用してもらうことで、大磯を気に入り移住にもつながる。
- 平塚総合公園や中井中央公園のような子どもたちが遊べる場所がない。子育てをする者にとって、1日過ごせる場所があると良い。
- 子育てして楽しい町にしていくことが大事である。

以上

第五次総合計画の策定に係る各種団体との意見交換会結果概要（大磯町商工会）

1. 日 時 令和元年12月10日（火）19:05～19:40
2. 場 所 大磯町商工会館
3. 出席者 大磯町商工会理事 11名
政策課 藤本課長、山口
4. 概 要
 - (1) 町からの趣旨説明
 - ◇ 第四次総合計画概要版及び卓話集会で使用したパワーポイント資料を配布して説明。
 - (2) 意見交換
 - 研究所や工場の誘致や、空き家を活用した無料貸借等もっと思い切った発想の転換が必要である。
 - 町は製造業等の企業への対応が不十分であり、抜本的な考え方の改革が必要である。
 - 製造業等の企業との意見交換も必要である。
 - 人口施策を自然増のみで対応することは難しい。
 - 人口が減少するなら減少するなりの対応を取るべきである。職員数や議員定数の削減等、10年後20年後を見据えた身を切るような対策を考える必要がある。
 - 子育てや教育に対する施策は周辺自治体も力を入れているので、周辺自治体に無い町特有の移住・定住施策を考える必要がある。

以上

第五次総合計画の策定に係る各種団体との意見交換会結果概要（大磯小学校PTA）

1. 日 時 令和元年12月12日（木）13:00～14:30
2. 場 所 大磯小学校
3. 出席者 大磯小学校PTA役員 10名
政策課 藤本課長、宮代
4. 概 要
 - (1) 町からの趣旨説明
 - ◇ 第四次総合計画概要版及び卓話集会で使用したパワーポイント資料を配布して説明。
 - (2) 意見交換
 - 小中一貫校が実現できると良い。大磯町だけの特徴的な体験学習を実施し、他の自治体と差別化できると効果的である。
 - 大磯町は通院に係る小児医療費の助成は、小学生までが対象であるが、中学生まで小児医療費助成があると、子どもの体調がすぐれないときにすぐに受診できるという安心感がある。
 - 夏休みや雨の日に子どもが遊べる施設がない。平塚市の子どものような施設があると良い。空き家を活用することも1つの考えである。
 - 子どもを産み育てたいと思うためには、幼稚園や保育園、学童保育などの要素が重要になってくる。
 - 現状として待機児童の発生や学童保育に入れないといった問題がある。人員や環境面等から手厚くしていくべきであり、子育てする人をサポートできる環境が整うことが重要である。
 - 朝の子どもの居場所づくり事業を利用しており、出勤時に子どもを預けられるので大変ありがたい。
 - これから子どもの数を維持することは、町にとってプラスである。あらゆる施策を手掛けて中途半端となるよりも、何かに特化して注力していく必要がある。これからは斬新的な取組みが求められる。
 - 下校時刻を防災行政無線で呼び掛けることで、町民みんなが他人事でなくなり、子どもの見守りに関わってくれる。
 - 第2子以降の保育料の無料化は引き続き実施してほしいが、年齢制限は撤廃してほしい。
 - 幼児教育・保育の無償化により、私立の幼稚園等を利用する方が増えていき、町立幼稚園の利用者が減っていくことが想定される。このまま町立幼稚園を存続するのではなく、早めに対策を取っていく必要があると考える。
 - バスが通っていない地域に住んでいて不自由を感じる。地域の住民が協力して運転等を担うタクシーのようなものの運行ができると良い。
 - 定期的に循環するバスを実現できると良い。

- 空き家の活用に関しては、シェアオフィスや貸しスペースとしての需要は多くあると思う。ドリンクバーのようなものを備えて場所を開放すれば、人が集まってくる。
- 古い空き家に魅力を感じている人も多く、呼び掛けることで定住につながる。
- 中学校給食が実現すれば保護者としてありがたいが、人口減少等を考えると多額の費用を掛けることが心配でもある。既存の施設を活用して効率的に実現してほしい。
- シェアサイクルは良い取り組みであるが、あまり周知されていない。
- 駅の近くに山があるのは珍しい。このような環境を生かして山あいの道をつなげて周遊できるようになると良い。

以上

第五次総合計画の策定に係る各種団体との意見交換会結果概要（大磯消費者の会）

1. 日 時 令和2年1月14日（火）13:00～14:15
2. 場 所 西小磯東老人憩いの家
3. 出席者 大磯消費者の会会員 9名
政策課 藤本課長、山口
4. 概 要
 - (1) 町からの趣旨説明
 - ◇ 第四次総合計画概要版及び卓話集会で使用したパワーポイント資料を配布して説明。
 - (2) 意見交換
 - 大磯町の自然である海と山の緑は大きな資産である。
 - 山の自然を削り住宅を建てるのではなく、平地の空き家のあるところにリフォームや新築などで居住してほしいので、補助制度の創設や規制がほしい。
 - 斜面地の開発により山崩れ等の甚大な災害が発生しており不安がある。空き家の活用について考える必要がある。
 - 市街化調整区域等の規制を緩和できれば、土地活用の幅が広がるのではないか。
 - 買い物について不便を感じる。車を運転しなければ買い物に行くことができない。
 - 乗合いタクシーよりも、タクシー料金を値下げして広く利用してもらう方が効率的である。
 - 車の運転免許証を返還してしまうと生活の足はバスかタクシーになり、出費が気になる。もっとタクシーを有効に活用できる手段を考える必要がある。
 - 免許証を返納した住民に対し、特典を考えてほしい。
 - これからの大磯町を考えるには、働いて子育てをする若い世代に手厚く援助し、町に住んでもらう必要がある。
 - 復職後に保育園に通う前後の時間に子どもを預かる制度が他の自治体にはある。町でも子育て世代のニーズに合った制度を検討してほしい。
 - 大磯町のブランド力は高いと思うが、ブランド力と住みよい環境との両立は難しい。
 - 町に観光に来てもし休憩する場所がほとんどない。空き家や空き店舗等を活用した一息つける場所がほしい。
 - 高齢化が進むとごみ出しが困難な人が増えると思う。有料化しても戸別収集の実施を検討してほしい。

以上

第五次総合計画の策定に係る各種団体との意見交換会結果概要（大磯町観光協会）

1. 日 時 令和2年2月19日（水）20:00～21:00
2. 場 所 ふれあい会館
3. 出席者 大磯町観光協会理事及び事務局員 17名
政策課 藤本課長、宮代
4. 概 要
 - (1) 町からの趣旨説明
 - ◇ 第四次総合計画概要版、卓話集会で使用したパワーポイント資料及び総合計画実施計画進行管理書（平成30年度版抜粋）を配布して説明。
 - (2) 意見交換
 - 若い世代の方が移住してきており、移住のきっかけなどを調査すべきである。
 - 大磯市をきっかけに8年前に移住してきた。身の回りでは子育て世代が増えている印象があり、町が言うほどの人口減少への危機感はあまりもっていなかった。
 - 多くの方が大磯の自然や静かな環境を魅力に感じて移住してきているのに、そうした良さを便利さが消してしまうのではないかと危惧する。総合戦略に示されている「大磯らしさの追求」が大事であり、データだけでなく生の声を聞いてもらいたい。私の商店の客は、今の大磯の暮らしに満足している方が多い。
 - 町は人口にこだわりすぎているようだが、大磯での暮らしの質を高めることが重要である。
 - 二宮町と比較すると、人口の推移の状況は大きく異なっており、大磯町の方が人口減少の度合いが緩やかである。大磯町にしかない魅力があるからだと思う。
 - ふるさと納税の制度を活用し、町の魅力を発信していくことも必要である。
 - 町は人の意見を聞きすぎている。発想を転換し、例えば「不便な町にしよう」というコンセプトを掲げて、不便な大磯の魅力を守り、不便なところは皆の力で乗り越えていく町をめざしていく。「町に住む人を選ぶ」というくらいの町にしていくことが、大磯らしさにつながる。
 - 町職員が大磯町に住んでいないところに定住人口安定化へのヒントがあると思う。
 - 新しい魅力をつくるのではなく、今ある町の魅力を充実させ、それを発信していくことが重要である。
 - 都心への通勤の利便性の良さを発信してもらいたい。
 - 自然や静かな環境に魅力を感じて大磯町が選ばれている。鎌倉市のようなオーバーツーリズムは避けたい。
 - イベント等を実施するためには、町有施設のインターネット環境も必要である。
 - 里山ウォークを通じて、道路の状態の悪さを感じた。暮らしよさにつながる環境整備は、大磯の魅力を損なうものではないと思う。
 - さきほどの「不便な町」の考えのように、他の町でやらないことをやってもらいたい。

- 大磯は多子世帯が多い。茅ヶ崎以東では多子世帯はほとんど見られず、大磯町の特徴である。多子世帯への祝金支給など、わかりやすい政策も有効である。
- 町内でレストランを経営しているが、ふるさと納税の返礼品として食事券を加えてもらったところ、北海道からの寄付があるなど、大磯町への期待値の高さが窺える。
- ライフスタイルや働き方も大きく変わってきており、大磯町の環境は「ワーケーション」の場として期待できる。公害の出ない企業の誘致も期待できる。
- 計画策定の時にだけヒアリングを行うのではなく、普段から現場に出てきて意見を聞いてほしい。開かれた行政を実現してほしい。

以上